



編集ボランティアのページ

●担当編集ボランティア／築城基裕、日置雅夫

～障がい者が地域で共生共存～

一宮市杉山に肢体不自由児のための特別支援学校があります。愛知県立一宮養護学校です。昭和48年4月に開校され、施設や教育の充実が図られてきています。身体障害や知的障害の程度に応じて3つのモデルの教育課程が用意されており、幼稚部から高等部まで一貫した教育が行われています。現在幼児児童生徒数は167名、職員数は非常勤を含めて150名です。子どもたちは、一宮市内だけでなく東は江南、南は弥富からも通ってきています。また、通学が難しい小学部・中学部の児童生徒のために訪問教育も行っており、寄宿舎も設置されています。

養護学校の地域社会とのかわわりを中心に教頭先生からお話を聞くことができました。

一宮養護学校では、地域の学校との交流及び共同学習を行っています。小学部では、葉栗小学校との間で年2回の交流と文化祭作品展示、共同制作を行っています。中学部では、葉栗中学校との間で年2回のふれあい交流と養護学校での文化祭作品展示や授業交流を行っています。高等部では、一宮北高等学校の福祉実践コースの生徒を中心に運動会やホームルームに参加したり、ブラスバンド部が文化祭で演奏したりとさまざまな交流が行われています。

また、居住地校交流として養護学校の児童13名が住んでいる地域の小学校の授業に年3回ほど参加しています。この内2名は、県の肢体不自由児スクールクラスターモデル事業として年間20日交流しています。これには受け入れ側の理解が欠かせません。

一宮養護学校には、学校評議員会があり、地域に住む方、医師、大学教授、障害者支援施設長、保護者が委員として参加し、出された意見や提案は学校運営に反映されています。公開授業、運動会、文化祭、卒業式には地域の人々が多く参加しています。

去年の一宮七夕祭りでは、美容組合一宮支部の厚意により浴衣ヘアショーに生徒が参加しました。浴衣を着る機会の少ない子どもたちや親にとって、地域の方からの誘いは驚きであり、浴衣を着てショーに参加できたことに感激したそうです。社会参加の機会として今年も続けて参加しました。

次回には、一宮養護学校が6年前から取り組んでいる「みんなプロジェクト」を取り上げる予定です。なお、このプロジェクトは障害児に必要な衣服や小物を地域社会のみんなで協力して作り上げる取り組みです。

20周年記念フェスティバル

まごころふれあいまつり

日時：平成25年11月3日(日) 10時～15時(雨天決行)

テーマ：「人生いろいろ」

場所：まごころふれあい広場及び九品地公園

★リサイクルバザー・模擬店・楽しいイベントを開催します!

～NPOの活動を続けて20年～「一宮まごころ」の活動

共に生きる暮らしをめざし、在宅福祉サービスをこの地で発足して20年。

お陰さまで、地域の皆様のご支援と励ましを頂いております。

これからも地域の「安心の窓口」として活動を続けてまいりたいと思います。

◆在宅支援…家事・介護支援 ◆ふれあい活動…地域の皆様とのふれあい企画

◆移動サービス…通院等の移動支援 ◆ふれあいサロン…毎週木曜

◆レスパイトサービス…障がい児の一時預かり

NPO法人 一宮まごころ 一宮市文京1-4-6 TEL73-8707



ひとこと

先日、「市民(NPO)と企業の協働フェスタ」に参加した。「産・学・官」の連携活動はよく知られているが、「NPO×企業」という図式は、市民には余り理解されていないのではないかと。企業は事業継続のためにも、働く人の高齢化・家族の少子化への対応が必要となる。希望者には65歳までの雇用確保を義務付ける法律が施行されたのもその一環だが、企業としては30年後、50年後の社会情勢を見据えた体制づくりが急がれていると思う。

NPOが蓄積してきた福祉事業のノウハウと、企業が持つ組織力・運営力の協働・合体は、更なる超高齢時代の対応に大きく貢献すると思う。人口ピラミッドが、正三角形時代の社会の仕組みが、逆三角形の時代に合う訳がない。[NPO×企業=相乗効果]を期待してやまない。